

まつり委員会 担当副理事長方針

小倉 大地

これまで中津川青年会議所は、「明るい豊かな社会」の実現を目指し、時代に先駆けたさまざまな運動を展開し、まちの発展に寄与してまいりました。この先も、より豊かなまちへと発展させていくためには、新たな発想を持って挑戦をしていくことが重要です。そのためには、我々の住まう地域が抱える課題に真摯に向き合い、人々に対して運動を展開していくことが必要です。このような行動こそが、青年会議所への信頼を高め、地域の未来を切り拓く力となり、さらには地域の活性化へつながる考えます。

「おいでん祭」は、多くの参画者と市民の皆様のご協力によって支えられ、地域に根差したまつりとして愛されてきました。しかし、時代の変化によって、個人の価値観が変わり、「おいでん祭」に携わる機会が減ったことで、参画者は年々減少傾向にあります。このまま減少が続けば、「誰の心にもつながるふるさとのまつり」が衰退していく恐れがあります。だからこそ、本年度、40周年という大きな節目を迎えるにあたり、今後も活気と華やかさのあるまつりを開催していくためには、想い溢れる次代の担い手を創出していくことが重要です。そのためには、次代の担い手となる子どもたちに、「おいでん祭」の伝統や想いに触れていただく中で、魅力を感じ愛着を持っていただくことが必要です。その愛着を育んでいくことで、「おいでん祭」に誇りを持った次代の担い手が増え、活気と華やかさを持った「ふるさとのまつり」として次なる節目へつながっていくと考えます。

我々は、先輩諸兄姉がこれまで地域からの信用を築き上げてこられたからこそ、日々、活動を続けることができていると考えます。だからこそ、私は副理事長として、この環境を決して当たり前のものと捉えることなく、その価値をメンバーにしっかりと伝え、この先も信用を積み重ねていくためには、地域に目を向け、課題に真摯に向き合える環境を提供してまいります。

＜まつり委員会＞

「おいでん祭」は、本年度、40周年という大きな節目を迎えるにあたり、次代の担い手となる子どもたちに、「おいでん祭」の伝統や想いに触れていただく中で、魅力を感じ愛着を育むことができる事業を展開し、次の節目へと紡いでいける人財を創出していただきたい。そして、40周年にふさわしい開催ができるよう新たな工夫に挑戦し、市民が笑顔に溢れ、郷土愛を実感できる「おいでん祭」の開催を目指していただきたい。